

お祭りでんでん館の情報や、八代市のお祭りや民俗芸能の魅力を発信！

Take
Free

DENDEN PRESS

2022
10
October
No.10

お祭りでんでん館

お祭りでんでん館 初開催！

NIGHT MUSEUM
ナイトミュージアム

八代妙見祭の魅力紹介

-木馬-

今月の民俗芸能紹介

女

千丁町
二の丸龍
神社例祭
相撲



八代妙見祭の魅力紹介—木馬—

お祭りでんでん館 2階 お宝ギャラリーにて展示中 12/18まで



木馬は、八代だけの出し物じゃないんじゃないよ。よそでは、「腰馬」と呼ばれているようじゃ。宇城市の小川阿蘇神社の祭りに出していたものも残っておる。天草市の大浦阿蘇神社の祭りや、香川県の祭りにも出しておるぞ。



馬は、造り物の馬の胴の部分に子どもが入り、乗馬しているように見せるものじゃ。江戸時代に八代城主松井寿之の70歳の祝いとして出されたのが始まりじゃよ。飾馬のミニチュア版といってもいいじゃろう。今回は、展示作品の中から明治時代の木馬を紹介するぞよ。これは、かつて本町で板屋の屋号で商売をしていた家に伝わったもので、八代市の指定文化財になっておるよ。明治5年（一八七二）板屋三代目の磯吉が長男の七五三の祝いに作ったそうじゃ。妙見祭の時は、大人が両脇で木馬についたひもを持って、子どもに木馬の重みがかからないようにしたんじゃ。八代神社までの道のりは長から、子どもも大変だったじゃろうな。展示室では、この木馬を元に明治20年代に作られた鬘付屋の木馬も展示しておるよ。近くでじっくり見比べてみてくれたまえ。

木

馬は、造り物の馬の胴の部分に子どもが入り、乗馬しているように見せるものじゃ。

お祭りでんでん館エントランス 「でんでんカード」を設置しました！

エントランスホールに広がる市内の民俗芸能を表現した「飛び出す絵本」には、これまで説明などが特にならなかつたが、今回、新しく「でんでんカード」を作成しました。「でんでんカード」はその芸能についての説明を記載しています。裏面には、それぞれの芸能の写真や動画が流れる外部サイトのQRを掲載しています。ぜひ説明を読みながら今一度飛び出す絵本をご覧ください。

イラスト：こばやしひろしさん 仕掛け・設計：紙成 鳴美さん /



↑ 印鑰（いんにやく）神社春季大祭「鮒取り神事」（鏡町）



↑ 「久連子古代踊り」（五家荘）



↑ 「土つき」のようす



↑ お祭りでんでん館エントランスにあるとび出す絵本「女相撲」

今月の民俗芸能紹介 ～市指定無形民俗文化財 女相撲～

毎年10月5日に千丁町の二の丸龍神社の例祭にて、「女相撲」が奉納されます。

女相撲は、安政2年（1855）に完成した二の丸新地・八代新地築造の際、潮止め工事が難航したので、周辺の村々から屈強な宮相撲衆（力士）を集め、潮止め口を踏み固めさせ、無事完成させたことがはじまりと伝えられています。いつから女性が主役の「女相撲」になったのか詳細はわかっていませんが、現在、女相撲保存会によって伝承され、力強い土つきや取り組みが行われます。

※今年の女相撲の奉納は新型コロナウイルス感染対策のため中止です。

10月22日（土）・23日（日）ナイトミュージアム

開館時間：17時～21時（最終入館は20時半まで）※昼間も開館しています

お祭りでんでん館は、2日間限定で、夜間の開館「ナイトミュージアム」を開催します！昼間とはまた違った雰囲気のお祭りでんでん館を、ごゆっくりお楽しみいただけます。

期間中は、笠鉾迦陵頻伽の実物展示、お宝ギャラリーでは木馬の展示を行っております。



また、屋外では、熊本県立大学（佐藤研究室、石橋研究室）が企画した「光のオブジェを使ったメディアアート」作品を展示します。

光のオブジェは、八代市の子どもたちがワークショップで作りました。本作品は、それらのオブジェにITやセンサー技術を取り入れ、人の動きに応じて色鮮やかに光る体験ができます。お祭りでんでん館の入口にて、ナイトミュージアム開催期間限定で展示します。ぜひ実際に作品を体験してみてください。多くの方々のご来場をお待ちしています。

ほくたちが作った「光のオブジェ」を見に来てください！

